

牛肉の格付けの仕組み

- 牛肉の枝肉販売価格は、畜産農家にとっては主要な収入となる一方、食肉流通業者にとっては仕入れ値に相当するものであることから、公正・公平な肉質評価基準の下、円滑な取引を確保していくことが重要。
- (公社)日本食肉格付協会では、全国統一の取引規格として「牛枝肉取引規格」を定め、個体ごとに格付を実施。格付は全国統一の取引の「モノサシ」として、価格形成に当たっての信頼し得る客観的指標となっている。
- 具体的な格付方法は、
 - ① 「枝肉」(図1)の状態、枝肉から実際使用できる部分肉が得られる度合いに係る「歩留等級(A~Cの3段階、表1)」
 - ② 筋肉内(第6~第7肋骨間)の脂肪交雑(「サシ」、「霜降り」)度合い※など品質に係る「肉質等級(5~1の5段階、表2)」
 ※ 脂肪交雑の度合いは、BMS(Beef Marbling Standard)により、12段階で評価。
 を組み合わせた15段階で判定(表3)
- なお、「肉質等級」は、脂肪交雑、肉色、肉の締まり・きめ及び脂肪色の4項目で判定しており、その項目別等級のうち、最も低い等級を格付として決定(表2)

表1 歩留等級区分

等級	歩留基準値	歩留
A	72以上	部分肉歩留が標準より良いもの
B	69以上72未満	部分肉歩留の標準のもの
C	69未満	部分肉歩留が標準より劣るもの

表3 格付規格の表示区分

歩留等級	肉質等級				
	高 ←				→ 低
	5	4	3	2	1
A	A5	A4	A3	A2	A1
B	B5	B4	B3	B2	B1
C	C5	C4	C3	C2	C1

表2 肉質等級判定

肉質等級	(例)
	3
脂肪交雑(BMS)	4
肉の色沢	4
肉の締まり及びきめ	3
脂肪の色沢と質	4



図1 枝肉

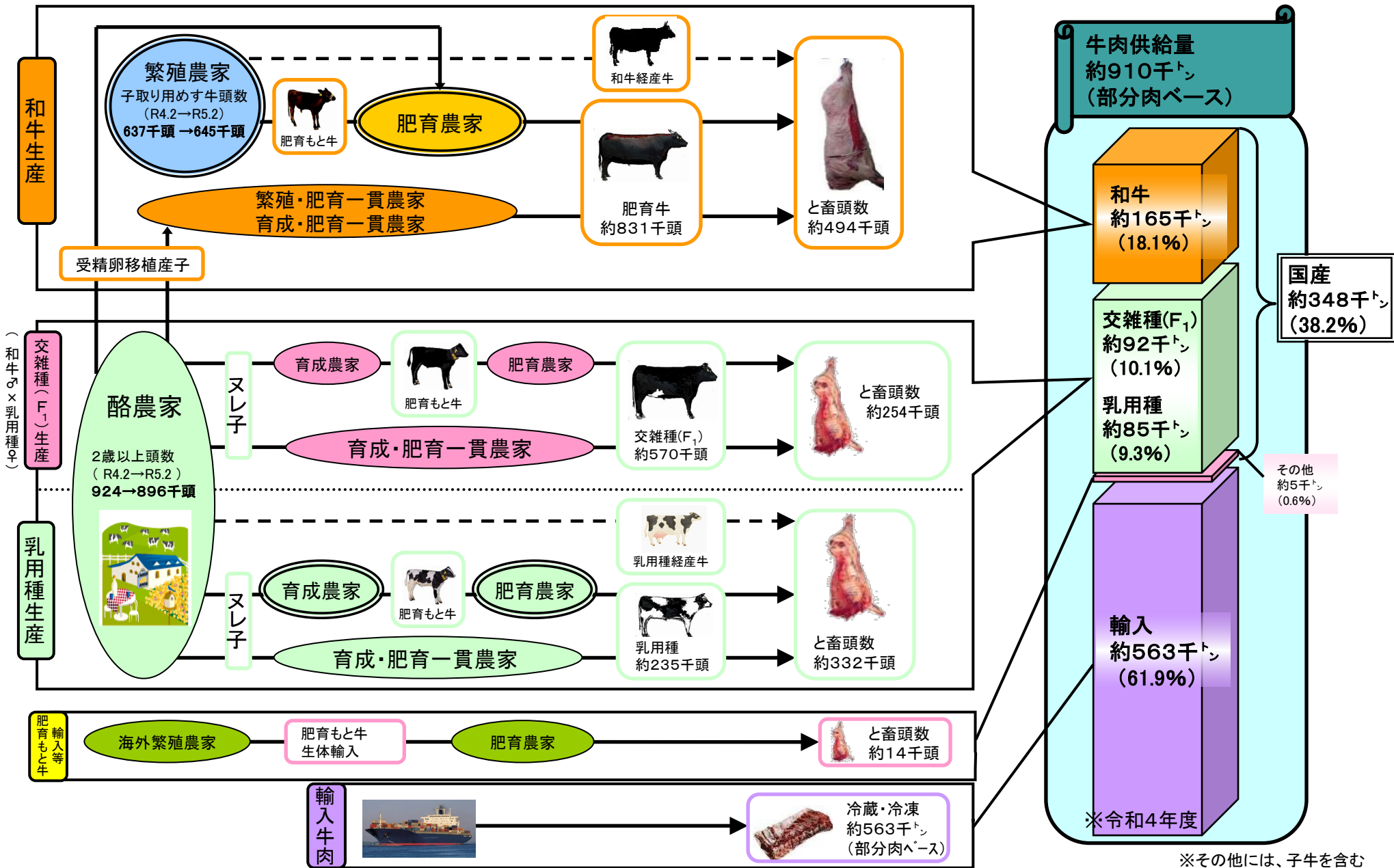


図2 3等級の枝肉



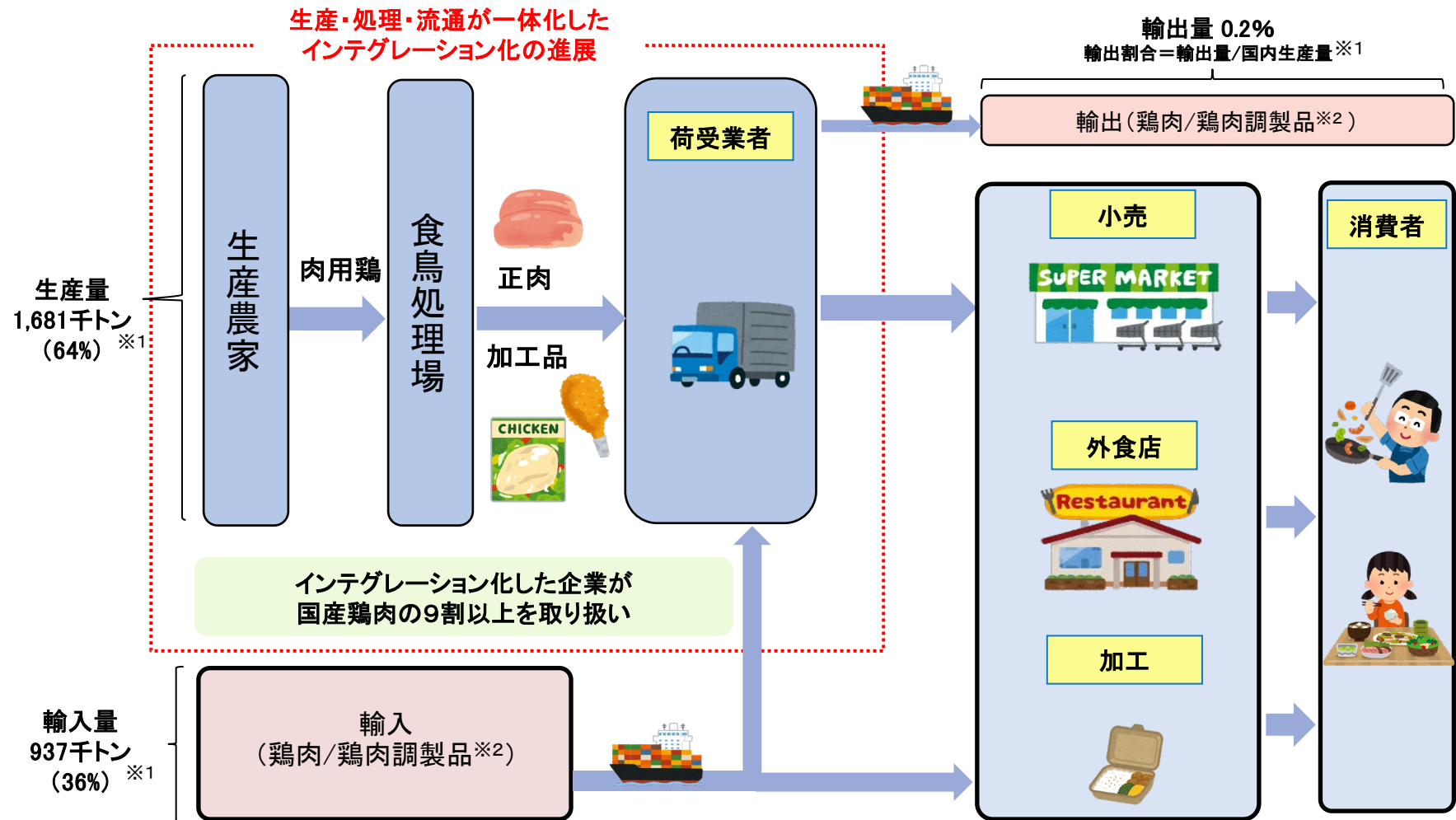
図3 5等級の枝肉

肉用牛の生産構造



資料：農林水産省「畜産統計(令和5年2月現在)」、「畜産物流通統計」、財務省「日本貿易統計」、(独)家畜改良センター「牛個体識別全国データベースの集計(令和4年度)」

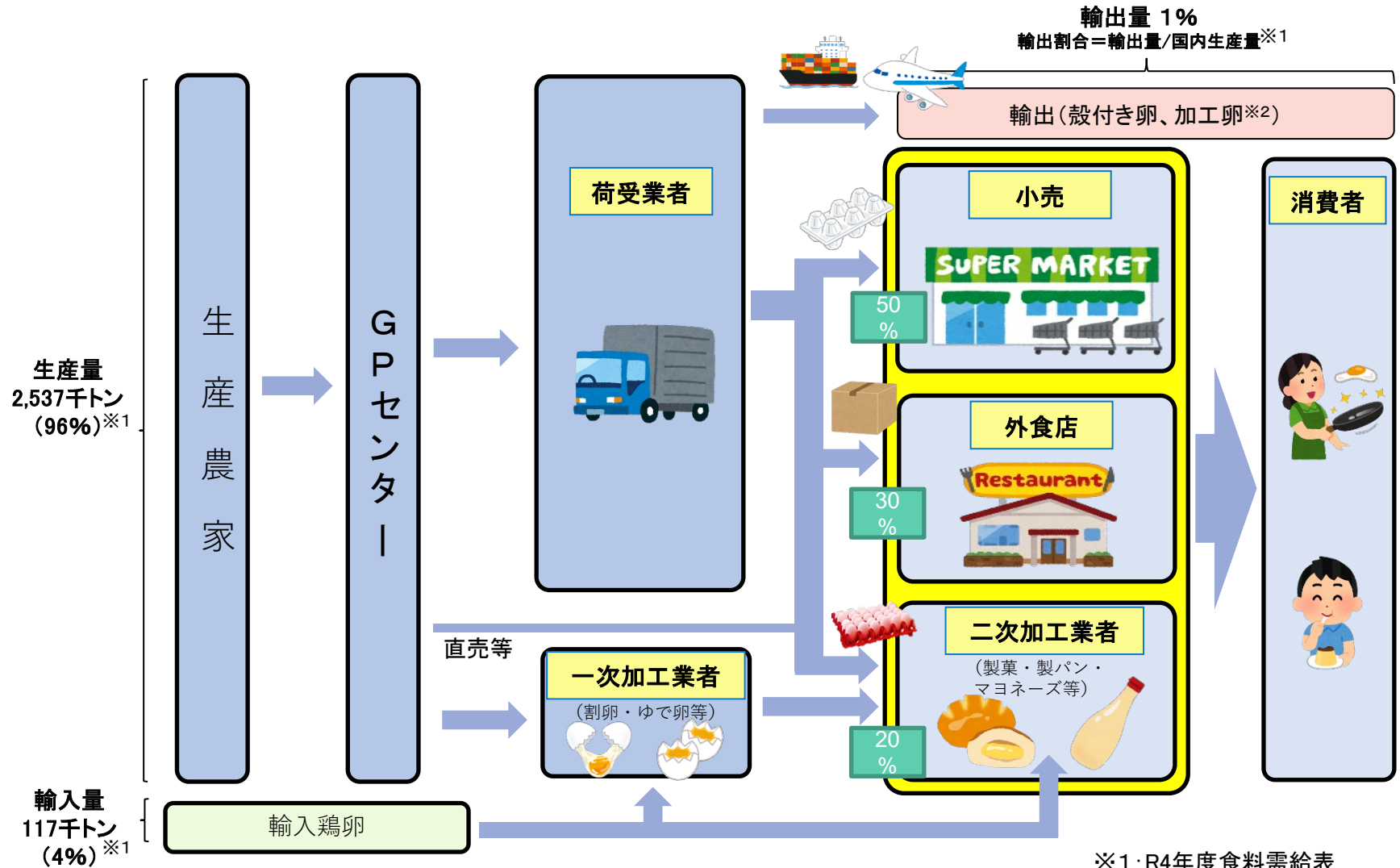
鶏肉の流通



※1: R4年度食料需給表(採卵鶏を含む)

※2: 唐揚げ、焼き鳥、フライドチキン、チキンナゲット、サラダチキン等

鶏卵の流通

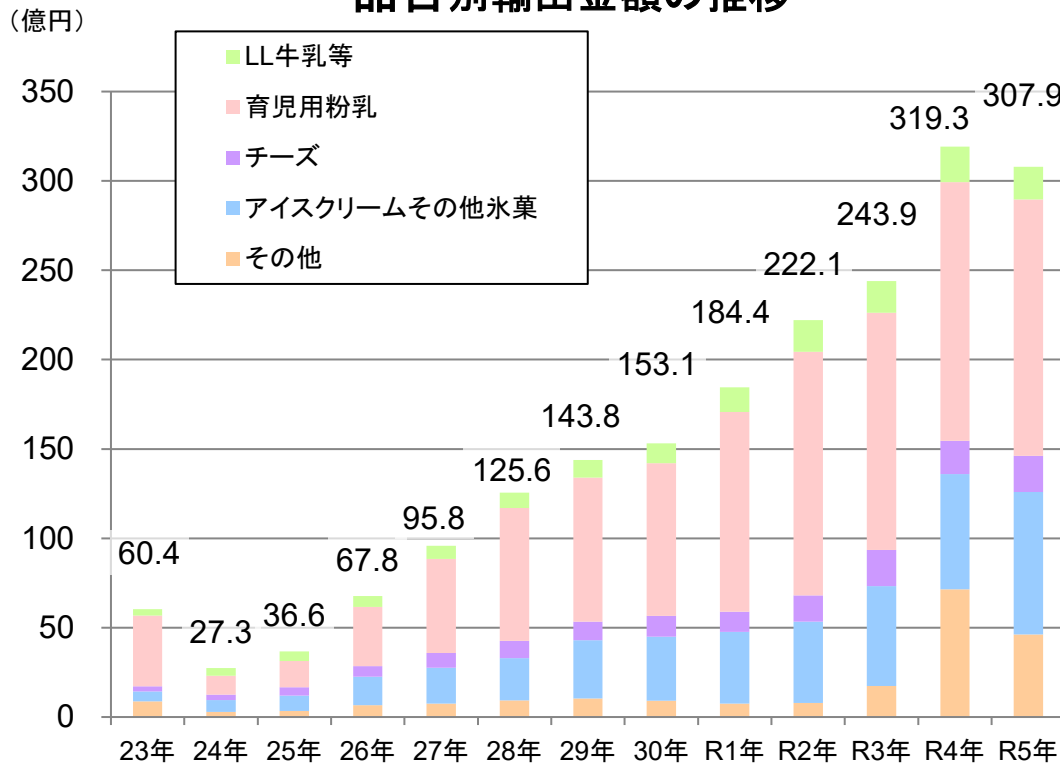


※1: R4年度食料需給表
 ※2: 温泉たまご、錦糸卵等

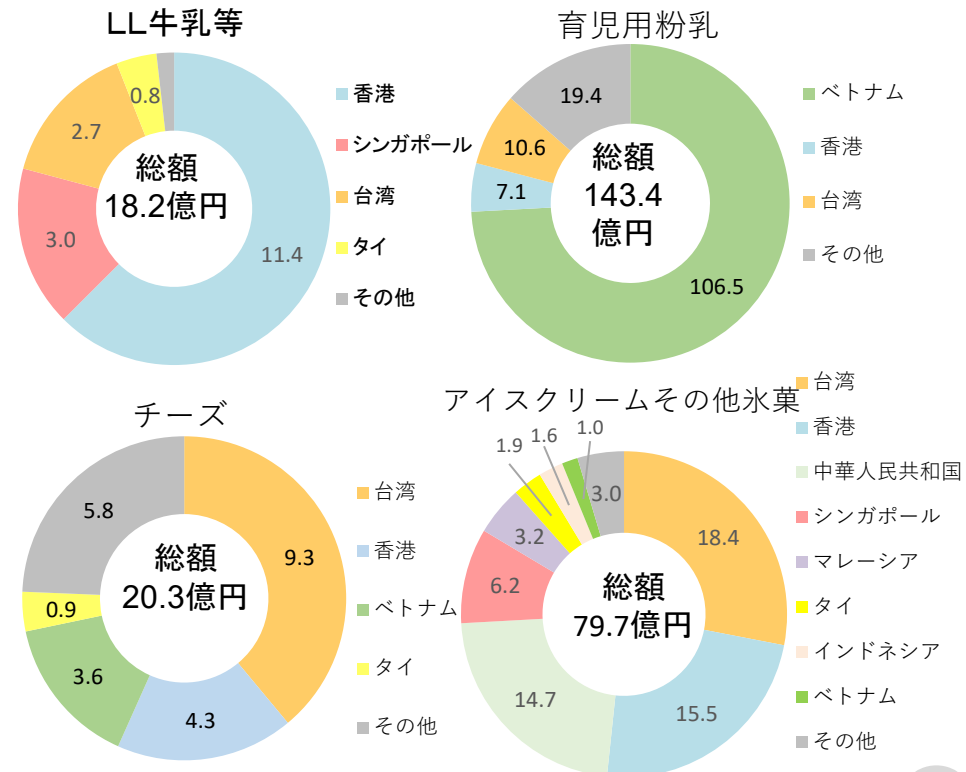
牛乳乳製品の輸出

- 牛乳乳製品の主な輸出先は、ベトナム、台湾、香港等。
- 平成23年の東京電力福島原子力発電所事故の発生に伴い大きく減少したものの、徐々に原発事故による諸外国の食品等の輸入規制が撤廃もしくは緩和された平成24年以降は増加傾向にあり、令和4年は過去最高額となり、令和5年は過去2番目となった。
- なお、中国向けの輸出については、平成22年の我が国における口蹄疫の発生及び平成23年東京電力福島原子力発電所事故により、放射性物質関連証明書及び衛生証明書様式が合意に至っていないことから、アイスクリームその他氷菓以外の牛乳乳製品の輸出は、事実上停止している。
- 「農林水産物・食品の輸出拡大実行戦略」に基づき、品質が高く評価されている強みを活かし、香港、台湾を始めとするアジア諸国・地域を中心に輸出拡大を目指しているところ。

品目別輸出金額の推移



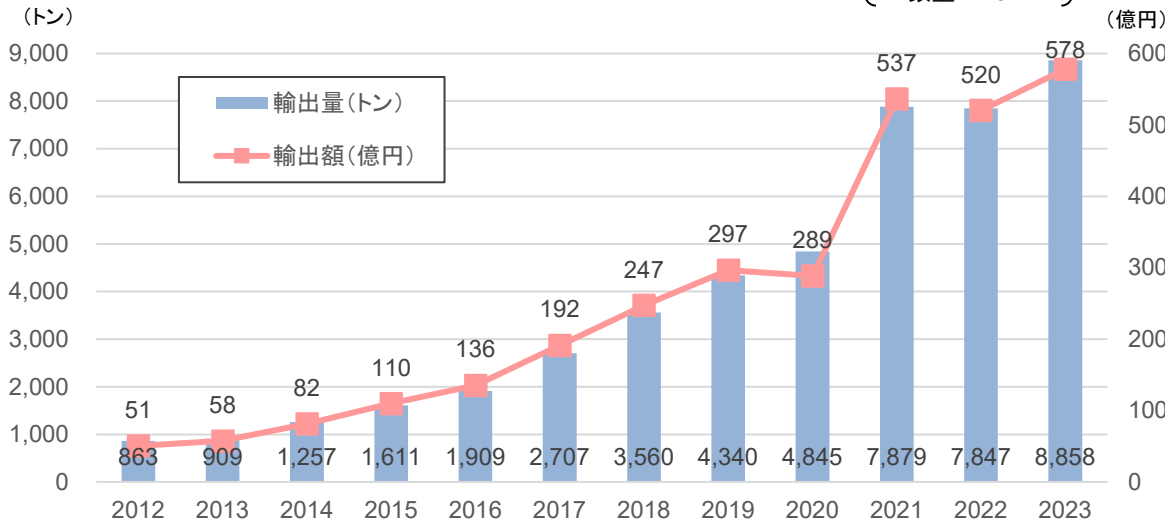
主要品目の国・地域別輸出額(令和5年(2023年))



国産牛肉の輸出

- 2023年の輸出実績は578億円(8,858トン)で、輸出額全体の約7割はアジア向け。
- 「農林水産物・食品の輸出拡大実行戦略」に基づき、
 - ・輸出先国の求める衛生基準に適合した食肉処理施設の整備・認定迅速化
 - ・産地ごとに生産者・食肉処理施設・輸出事業者等が連携して生産から輸出まで一貫して輸出促進を図る「コンソーシアム」の取組等により、2030年の輸出目標3,600億円の達成に向け、更なる輸出促進を図る。

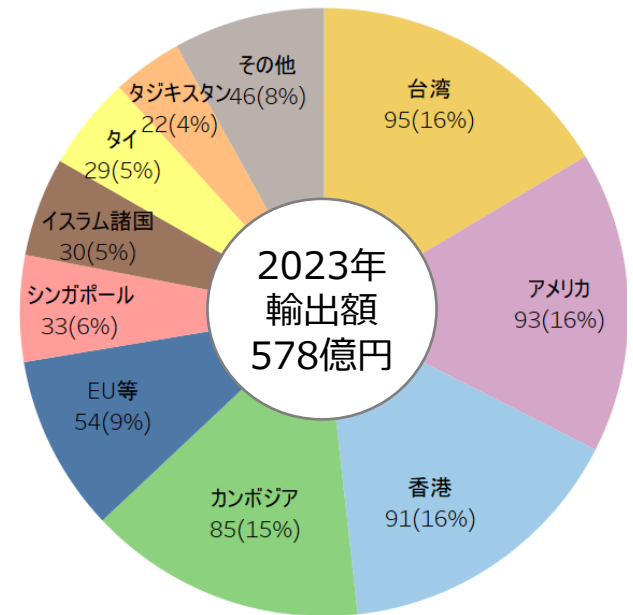
牛肉の輸出実績
(貿易統計ベース)



前年比
(2023年)
金額:111%
数量:113%

※ 正肉、牛くず肉の合計。ただし、2022年以降は加工品も含む。

牛肉の輸出実績(国・地域別)



【検疫協議・施設認定の状況】

- 輸出国・地域別の施設認定状況は別表のとおり。

輸出国・地域別の施設認定状況

2024年3月18日 現在

	米国	カナダ	香港	NZ	オーストラリア	アルゼンチン	ウルグアイ	EU	シンガポール	メキシコ	フィリピン	ブラジル	台湾	インドネシア	マレーシア	UAE	サウジアラビア	カタール	バーレーン	マカオ	タイ	ミャンマー	ロシア等	ベトナム
施設数	16	10	14	15	10	4	3	11	20	11	14	3	28	2	2	5	3	8	6	77	80	53	4	69

家畜飼料の種類

粗飼料

- 粗飼料は茎葉を乾草（乾燥）、サイレージ（乳酸発酵させて貯蔵性を高めたエサ、塩又キの漬け物のようなもの）にして貯蔵できる。
- 濃厚飼料に比べると粗繊維質量が高く、エネルギーやたんぱく質が少ない飼料。しかし、草食動物である牛にとっては栄養源となるだけでなく、消化機能を安定させるため、生理的に必須の飼料。

濃厚飼料

- 穀類（とうもろこし、こうりゃん等）、大豆油かす、糠（ふすま、米ぬか等）等がある。
- エネルギーやたんぱく質が豊富で、これらの供給源として重要な飼料。

牛・羊等草食家畜の飼料

豚・鶏用飼料(粗飼料は通常給与しない)

自給率の現状(令和4年度概算)と目標(令和12年度): <粗飼料> 78%→100% <濃厚飼料> 13%→15% <全体> 26%→34%

とうもろこし(青刈り)



牧草



細断



とうもろこし



大麦



こうりゃん



食品残さ等

密封・発酵



サイロ詰め



ロールベア
で梱包

ラップで密封



濃厚飼料(配合飼料)



給餌



サイレージ



給餌



濃厚飼料(エコフィード)

※稲発酵粗飼料(稲WCS)は粗飼料、飼料用米は濃厚飼料である。